

フロンティアソフトマター開発専用ビームライン産学連合体

第 34 回運営委員会 議事録

日 時 : 2023 年 3 月 2 日(木) 13:00~16:00

場 所 : 京都大学東京オフィス (東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング 10 階)
ZOOM ハイブリッド開催

参加者 : FSBL 代表 小島優子 (三菱ケミカル)、副代表 小池淳一郎 (DIC)、
運営委員長 竹中幹人 (京都大学)、副委員長 秋葉勇 (北九州市立大学)、
蟹江澄志 (東北大・住ゴム)、和泉篤士 (住友ベークライト)、船城健一 (東洋紡)、
内田公典 (三井化学)、原寛 (帝人)

学術諮問委員会 : 委員長 金谷利治 (京大名誉教授)、西敏夫 (東大・東工大名誉教授)、
安部明廣 (東工大名誉教授)

JASRI : 増永啓康 (BL 担当者)

事務局 : 福岡奈緒子

計 14 名

* オンライン参加 : 産学連携将来高度化委員長 田代孝二 (あいち SR)、
コアメンバー 岩田忠久 (東京大学)、櫻井和朗 (北九州市立大学)
企画戦略アドバイザー 高田昌樹 (東北大学)

坂本直紀 (旭化成)、津村佳弘 (クラレ)、濱松浩 (住友化学)、藤原明比古 (関学大)、岸本浩通
(住友ゴム)、岡本泰志 (デンソー)、山本渥司 (デンソー)、星野大樹 (理研・デンソー)、竹田正
明 (東レ)、奥野憲一郎 (ブリヂストン)、平田成邦 (ブリヂストン)、陣内浩司 (東北大・ブリヂ
ストン)、小林貴幸 (三菱ケミカル)、網野直也 (横浜ゴム)

JASRI : 山口 章 (常務理事 (兼) 産業利用・産学連携推進室長)、関口 博史 (放射光利用研究基
盤センター散乱・イメージング推進室時分割小角・広角散乱チームリーダー)、古川聖 (企
画室)、岡田行彦 (利用推進部)

計 22 名 合計 36 名

欠 席 : コアメンバー 高原淳 (九州大学)、田中敬二 (九州大学)、中瀬古広三郎

学術諮問委員 : 橋本竹治、土井正男、梶山千里

内 容 : 本委員会は 2022 年度下半期の活動内容の報告および 2023 年度上半期の運営に関
して、活動内容や運営体制を決定するため開催された。また、将来構想に関して 2023 年 1 月より
発足した三つのワーキンググループからの報告と今後の活動についての確認も行った。

会議に先立ち、小島代表より、12 月に実施された中間評価の結果、メンバーの皆様協力により
「継続」の評価をいただき、また将来構想に向けての具体的な検討も始まり、新しい体制への移
行が始まってきたので、より多くのご意見をお願いする旨開会の挨拶があった。引き続き、学術
諮問委員長金谷利治先生より、中間評価でも高い評価が得られ、また新しい体制と新しい成果創
出のために、活発な議論を期待する旨、ご挨拶をいただいた。

出欠に関しては、全 15 グループのうち 5 グループの運営委員が対面で出席、10 グループの
運営委員がオンライン参加ということで、全運営委員が出席した。

以上のことより、運営委員会内規第 8 条 2 項に基づき、本運営委員会が成立していることを

確認した。会議は竹中運営委員長を議長とし、議事次第に従い進められた。

以下にその詳細を記す。

I 活動の報告

(1) 第 33 回運営委員会議事録

メール承認済みであることが報告された。修正箇所等があれば、速やかに連絡することとした。

(2) 運営委員、別紙 2、別紙 3 の変更について

前回運営委員会以降の変更について、メール回覧済みであるが、改めて確認した。

- ・運営委員の交代 *クラレ G 俊成様→津村様
*ブリヂストン G 平田様→奥野様
 - ・別紙 2 事業者の追加 ブリヂストングループ (株)プロスパイラ
 - ・別紙 3 学術メンバーの追加 三井化学グループ 京都大学 中西先生
- 異動・交代等があった場合は、速やかに事務局まで連絡することとした。

(3) 経理関係

A) 2022 年度第 2 四半期決算及び 2022 年度第 3 四半期決算について

2022 年度第 2 四半期および第 3 四半期決算については、書面審議済みであることが報告された。引き続き 4 月から 5 月にかけて、2022 年度末 (3 月末締め) 決算の会計監査を実施し、書面審議を行う予定であることが報告された。

B) 2022 年度運営費予算の執行状況と繰越額について

旅費や謝金など予算外の出費があり、費目ごとに予算との相違はあるが、全体としては、予算通りの支出となる見込みであることが報告された。

上記のことより、10 月の運営委員会でご報告した繰越額 (約 1100 万円) の通りとなる予想で、予定通り 2023 年度運営費は 330 万円/社/年 (税込み)、3 月下旬に請求書発行、4 月中に入金の予定で進めることが報告された。

C) 2023 年度償却資産申告書および 2022 年分法定調書合計表

謝金の源泉徴収税の納付について、相生税務署へ申告したことが報告された。

ビームライン設備 (償却資産) の変動がなかったため、佐用町へ申告を行ったことが報告された。この申告に基づき、4 月に固定資産税の納付を行い、各社へ固定資産税負担分の請求書を送付する予定であることが報告された。

(4) 第 27 回産学連携将来高度化委員会の開催

1 月 24 日に開催した第 27 回産学連携将来高度化委員会において、申請された 2023A 期のアドバンス課題の内容と審査結果について、報告された。それぞれの課題内容についての質疑が行われ、厳正な審査が実施されたことを確認した。

また、これまでの成果の一部は、学術論文としてすでに発表されており、アドバンス課題の目的を果たしており、今後もこのようなレベルの高い研究成果の創出を目指す事が報告された。

(5) 第 27 回ビームタイム配分検討委員会の開催

1 月 30 日に実施した第 27 回ビームタイム配分検討委員会において、各グループからの希望日程表の内容に沿う形でスケジュール案を作成したことが報告された。

また、補填に関するスケジュールに関する検討の実施したことも報告された。

(6) 第 27 回安全委員会の開催

2月22日に実施した第27回安全委員会での検討事項について、報告された。

ヒヤリハット事例として、漏電および個人線量計への誤照射の事例が紹介され、それぞれの再発防止策が検討され、FSBLメンバーへの注意喚起を行った。

前回の安全委員会時に内側側室の冷蔵庫内に試薬（液体）の忘れ物があり、その後FSBLメンバーへ何度も確認依頼をしたが、持ち主が現れなかったため、危険物として処分することとした。持込物品は持ち帰ることについては、安全チェックリストのチェック項目となっており、冷蔵庫には持込物品の「名称」「持込者の情報」「持込期間」を記載したうえで保管する事を表示しているため、ユーザー全員に再度これらのルールを守るよう、注意喚起を行った。

新型コロナウイルスの予防等に関して、政府の取り扱いが変わるため、マスク着用や体温測定に関するFSBLからユーザーへの注意事項を変更することとした。但し、マスクや消毒液などの予防対策備品や体温計はこれまで通り設置することとした。

(7) 中間評価結果について

12月7日に実施された中間評価結果について、メール回覧済みであるが、改めて報告された。

全体的な評価は良好であったが、競争領域の課題の取り扱いに関しては、引き続き積極的に取り組むこととした。

(8) 広報活動の報告

A) 見学等実績の報告

見学の実績、その他FSBLとしての発表や記事の実績について、報告された。

SPring-8施設公開は2023年度もオンライン開催となる見込みである。

B) ワークショップの開催

2022年度については、矢代先生のワークショップを実施したが、2023年度の計画がまだ決定していない。コアメンバーより、「ゴム材料の階層構造解析、繊維材料の解析などの具体的なテーマに対して、それぞれ企業グループの持っている技術や知識を持ち寄って、徹底的な討論をすることによって、産学連携で情報共有を促進し、お互いのレベルアップを図る」ことを目的とした討論会の形でワークショップを開催することが提案された。

この提案について反対意見はなかったため、広報委員会でテーマを検討し、運営委員会へ提案することとした。

C) 第12回研究発表会の実績

研究発表会実施後に行ったアンケート結果を紹介した。開催時期や講演時間、質疑応答時間など概ね好評であったが、ポスター発表の方式については、オンライン参加の場合は参加できなかったため、次回のポスター発表の方式については検討することとした。

また、ホームページからの参加登録時にホームページが開かなく、ページ自体が重かったので、改良することとした。併せて、安全委員会との連携でチェックリスト等をホームページから入力できるようにする整備や、全体的な見直しを2023年度前半で行うこととした。

(9) 第10回堀江賞の受賞について

第12回研究発表会での発表内容とこれまでの実績も鑑み、堀江賞の理念に基づいた研究内容を実施していることが評価され、第10回堀江賞を帝人グループへ授与することが報告された。

帝人グループ原運営委員が研究グループを代表して、トロフィーと記念品を受け取った。

(10) 将来構想

本年1月より各ワーキンググループの活動が始まり、それぞれのワーキンググループから現況の報告を行う。

その報告の前に、これまでの流れと理研への移行の経緯について説明がなされた。

A) 協定書改訂 WG

協定書 WG から、現在の協定書の内容を確認し、変更すべき点についての検討を実施していることが報告された。

移行後のビームタイムの希望利用時間や BL03XU 以外のビームラインの利用希望など、アンケートを実施することとした。

また、実際に運用が始まった際には、年度により希望利用時間は変動することが見込まれるため、最低利用時間と最高利用時間を決め、理研 BL の利用申込時期ごとに申し込みを行うなど、フレキシブルな運用ができるよう検討を続けることとした。

併せて、理研とのレビューの際に、移行に関する確認事項について、下記の報告がなされた。

1. 契約年数は、複数年契約が可能。
2. 共用 BL を利用する事に関しては、FSBL としてどの BL にどのぐらいの利用の要望があるか調べる。
3. BL03XU をメインに利用し、どのような使い方をするか、FSBL の WG で検討する。
4. ユーザーの手続きは、現在 JASRI 利用推進部へ利用申込ではなく、理研の外部利用者の登録となる。FSBL 事務局で課題申請～ユーザーの来所・変更を取りまとめ、理研へ手続きを行う（予定）。

共用 BL を利用の際にも、理研で手続きを行う。

ユーザーの手続きに関しては、やりやすい方法を理研 FSBL 双方で検討する。

5. 利用料金 ... 成果公開の場合 168,000 円/1 シフト(8h)

共用 BL を利用の場合は、成果公開優先課題で 144,000 円/1 シフト(8h)、成果専有利用料は別途

6. BL 高度化 ... 理研の基盤開発プログラムに FSBL 学術メンバーを中心に課題を申請し、別枠で利用できるようにする。このユーザーは外部利用ではなく、理研の客員研究員に登録する。

7. 外部資金 ... 外部資金を獲得し、BL を利用する。(理研がメンバーに入る形態もあり得る)

B) 産学連携運営体制 WG

産学連携運営体制 WG より、今後の産学連携体制をこれまでの1対1での連携とテーマごとにグループを作る連携とを並行で実施する体制が提案された。

テーマごとのグループについては、以前に実施していや熱硬化分科会や GI 分科会のような形で、大枠のテーマをいくつか決め、企業・学術メンバーが参入しやすいテーマを検討するこ

ととした。

新しい体制での学術メンバーの参入方法については、これまで通り運営委員会へ報告を行う形が提案された。

また、下記の意見があがり、今後検討することとした。

- ・FSBL 設立の理念として、高分子研究において世界をリードする研究を行うことが掲げられており、理研へ移行後も引き続き世界のトップになるような研究を創出できるような仕組み、テーマ設定を行うべき。

- ・これらの仕組みは社会人ドクターや学生の企業との連携など教育に繋がる一面もある。

- ・このような仕組みを立ち上げるためには、責任をもってこれらの検討を先導する学術のリーダーが必要である。

- ・新規参入メンバーについては、公募を行うなど、メンバー以外にも利用機会があるような仕組みが必要。

- ・学術だけのグループを作る。

C) 法務経理関係 WG

法務経理 WG より、現状での問題点・検討すべき事項の洗い出しを実施した事が報告された。

固定資産の移管に関して、理研へ過去の移行時の事例を確認したところ、過去の事例では譲渡または(国研)同士の移管で、売買の事例はない。固定資産移管方法についての資料を作成し、各社へ確認が取れるように準備することとした。

D) 学術メンバー会合

学術会合での検討事項が報告された。

産学連携 WG と連携し、学術側でこれらの検討をリードしていかなければならない。

学術のメンバーに BL サイエнтиストも含めて、高度化について学術側で誰が何をできるか、検討を進める必要がある。

II B L 0 3 X U 運用についての報告

(1) 2022B 期の実績と 2023A 期の予定

2022B 期については、上記ビームタイム配分検討委員会からの報告でもあったように、ビームダンプ等による補填があり、既に実施済みであることが報告された。

また、竹中先生のアドバンス課題が体調不良により実施できなかったため、2023A 期の緊急利用枠で実施することが提案され、承認された。

2023A 期のスケジュールについても既にメール審議済みであるが、その後グループ同士の交換が行われ、最終版のスケジュールが確認された。

(2) BL サポート状況について

前回運営委員会以降に実施した理研との BL サポートレビューの内容について、報告された。

引き続き、BL 整備の状況についての説明がなされた。

III 検討事項(承認事項)

(1) 2023 年度運営体制について

A) 運営委員長、副委員長

竹中運営委員長の任期満了に伴い、2023年度-2024年度の運営委員長に秋葉運営副委員長が推薦され、全会一致で承認された。

秋葉運営副委員長の運営委員長就任に伴い、2023年度-2024年度の運営副委員長に藤原委員（関学大）が推薦され、全会一致で承認された。

B) 各専門委員会委員

2022年度末で任期満了となる各種専門委員について、2023年度-2024年度の委員候補が下記の通り推薦され、全会一致で承認された。

- ・ビームタイム配分検討委員 … 企業側（持ち回り） 住友ゴム G、ブリヂストン G
学術メンバー 星野先生
- ・安全委員 … 企業側（持ち回り） 住友化学 G、デンソーG
学術メンバー 戸木田先生
- ・広報委員 … 企業側（持ち回り） 東洋紡 G、住友ベークライト G

企業側担当グループは、委員担当者について事務局まで連絡することとした。

学術メンバー担当の先生方には、既に内諾を頂いている。

(2) 2023年度業務委託契約等について

A) FSBL 協力に関する協定書

2022年度の契約額を基に、2023年度よりソフトウェア構築等の作業を本業務委託の中で実施するため、契約金額 3700 万円（税込み）/年が提案され、全会一致で承認された。

B) FSBL 事務局運営業務委託

2022年度の契約と内容及び金額ともに同じでの契約が提案され、全会一致で承認された。

IV 今後の活動及び連絡事項

(1) 2023年度計画

例年通りの活動に加え、各WGの活動及び学術メンバー会合の実施を行うことが報告された。

(2) 第35回運営委員会の開催について

2023年度の主な行事として、下記の日程及び場所での開催を予定している。

- ・第35回運営委員会 2023年10月2日（月） 13時～
東京大学農学部 フードサイエンス棟 中島ホール
- ・第13回研究発表会 2024年1月9日（火）-10日（水）
（仮）名古屋工業大
- ・第36回運営委員会 2024年3月4日（月） 13時～
（仮） 東京大学農学部 or DIC 本社

(3) その他

・国際会議(9IDMRCS, <https://9idmracs.jp>)への協賛、ブース展示を行うことが提案され、承認された。

・前回運営委員会で報告した田代先生の書籍について、書籍の納入及び各購入者への請求書発行が完了していることが報告された。

- ・2021年度版成果報告書集の印刷が完了しており、3月7日に事前に確認した冊数を発送予定であることが報告された。

- ・竹中先生の運営委員長任期満了のため、これまでのご貢献に感謝し、トロフィーと記念品を贈呈した。

以上を以て、予定していたすべての議事についての審議及び報告が完了した。

小池副代表より、今後理研への移行をスムーズに実施できるよう、メンバー全員で協力し合う旨閉会の挨拶があった。

引き続き学術諮問委員西敏夫先生より、今後はよりよい社会となるようメンバー全員で素晴らしい成果創出を期待する旨、閉会の挨拶を頂戴した。

以上。